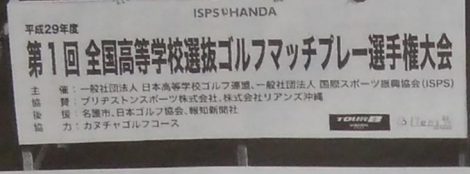
ISPSハンダ・全国高等学校選抜ゴルフマッチプレー選手権大会 開催

高校生が対象の初のマッチプレー競技「ISPSハンダ・全国高等学校選抜ゴルフマッチプレー選手権大会」が12月12日から14日までカヌチャゴルフコース（沖縄）を舞台に行われた。高校生ゴルファーはもちろんのこと、ゴルフ界にとっても大きな意義のある大会になった。



ゴルフの未来を育てる

若き選手の育成を通じてゴルフ界の発展を

北は北海道から南は九州・沖縄まで全国から高校生ゴルファー64選手が沖縄に集結した。出場資格は2017全国高等学校ゴルフ選手権大会個人の部の上位者と各地区推薦により選抜された精鋭たちだ。気温は20度近い南国の環境で選手たちは伸び伸びとプレー。持て沖縄に集結した。出場資格は2017全国高等学校ゴルフ選手権大会個人の部の上位者と各地区推薦により選抜された精鋭たちだ。気温は20度近い南国の環境で選手たちは伸び伸びとプレー。持てる力の全てを発揮した。

大会はISPS（国際スポーツ振興協会）の半田晴久会長の後押しで実現した。かねて日本のゴルファーの底上げを願っていた半田氏はその手始めとして、今年14年ぶりにプロの「ISPSハンダマッチプレー選手権」を復活させた。1回戦から優勝に至るまでに7マッチを要する過酷なその戦いはぬるま湯気味の日本人プロを覚醒させる大きな効果があったのだ。

しかし、半田氏はプロになってからでは遅い、将来のある伸び盛りの高校生にマッチプレーを体験させることで、日本のゴルフ界はさらによくなると判断。同じ理想を求めていた日本高等学校ゴルフ連盟（以下高ゴ連）の井上尚彦理事長と意気投合し、実現に至ったのだ。もちろん強いだけの選手を育てるという意識は毛頭ない。

ISPS会長、日本高等学校ゴルフ連盟名誉顧問
半田晴久氏

「マッチプレーというのは1対1の勝負で、常に後がない真剣勝負。その中から相手だけでなく、自分との闘いもあり、コースマネジメントや、強い精神力も必要です。また1対1で戦うことで、試合の後に相手に対する敬意や友情も生まれます。この勝負から人間的な成長に必要な大切なことが多く得られるのです」とは半田氏。

勝負の中からさまざまなことが学べる

一方、井上理事長も「高校ゴルフ連盟の最大のテーマはゴルフを通じて礼節や感謝の気持ちを養うことにあります。今回の試合でも対戦中は火花を散らすこともあるでしょうが、終われば一サイド。気持ちよく握手するように伝えています。相手に対する敬意を持つということは、彼ら（彼女ら）が社会人になった時、きっと役に立つはずです。私たちは強い選手を育てるのはもとより、人間形成に重きを置き、これを目的としています」

こんな時代だからこそ伝えたいこと

さらに、社会貢献を常に念頭に置く半田氏は現在のジュニアを取り巻く環境についても語る。

「日本ゴルフ協会（JGA）のナショナルチーム や日本ゴルフツアー機構（JGTO）、日本女子プロゴルフ協会（LPGA）などにしても単にできあがった選手を活用しているだけで、本当の意味のジュニア育成をしていないのではないか。育成を真剣に考え、取り組んでいるのは高ゴ連です。だから草の根運動の意味もあって、私は真剣に応援するのです」

礼節や感謝の気持ちを養うこと

会員6000人の高ゴ連は資金の面で問題があった。そこで、半田氏が毎年1000万円を提供して活動を全面支援。さらに、1000万円支援して、今大会出場選手の旅費や滞在費も捻出できたのだ。だから選手たちの感謝の気持ちも並大抵ではない。

最近、高校生の言動が多々問題視されているが、この大会を見る限り、選手たちはみんな礼儀正しく、明るい。プロを目指す子供たちも大勢いた。

半田氏のジュニアゴルファー育成への思いや、高ゴ連の井上理事長をはじめ役員諸氏の努力は確実に実っているようだ。

高校生史上初のマッチプレーはこれから確実に根を生やしていくことだろう。

（ゴルフジャーナリスト・宮崎紘一）

優勝者の喜びの声

和久井麻由

東京都・代々木高校1年

「高校生になって初めてのビッグタイトルなのでこんな嬉しいことはありません。最初はマッチプレーのやり方が分からなくて不安でしたが、やっているうちに楽しくなりました。1回OBを打ってもそのホールで終わりですから切り替えもできます。いかに相手に取られないかに気をつけるので集中もできて面白いです。マッチプレーは決断と思い切りですね。それがすごく勉強になりました。ドライバーは250ヤード飛ばします。（彼女は身長167センチと体格にも恵まれている）将来はプロを目指します。ステーシー・ルイス（米国）のような切れ味の鋭いゴルフがしたいです。夢は日本で賞金女王になり、その後は世界を舞台に活躍できればと思っています」

優勝者と日本高等学校ゴルフ連盟理事長 井上尚彦氏

西村優菜（大阪商業大学高校2年）に2&1で勝利

坂本柊人（広島県瀬戸内高校3年）に19H1UPで勝利

小野貴之

兵庫県・滝川第二高校1年

「マッチプレーは初めてです。ストロークプレーより面白かった。ミスをしても1ホールで区切りがつくので思い切って攻めることができました。何と言っても攻守のメリハリができるのがいいです。6番までで3ダウン（インスタート）でもうダメだと思いましたが、そこから開き直ったら7番（5ホール）、8番（1ホール）、9番（2ホール）と3連続バーディーで追いつきました。勝負は最後まで諦めてはいけないことを今回学びました。将来プロを目指したいのですが、ジョーダン・スピース（米国）のような障害者を支援するような社会貢献のできるプロになりたいです。マッチプレーというこんな大きな大会で優勝できたことはこれからの大きな自信になります」